ORIENTEERING JAPAN

O-JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

94/2

1994年［平成6年］2月10日発行
（毎月1回10日発行）
第11巻第2号通巻第127号
昭和63年6月24日第三種郵便物認可

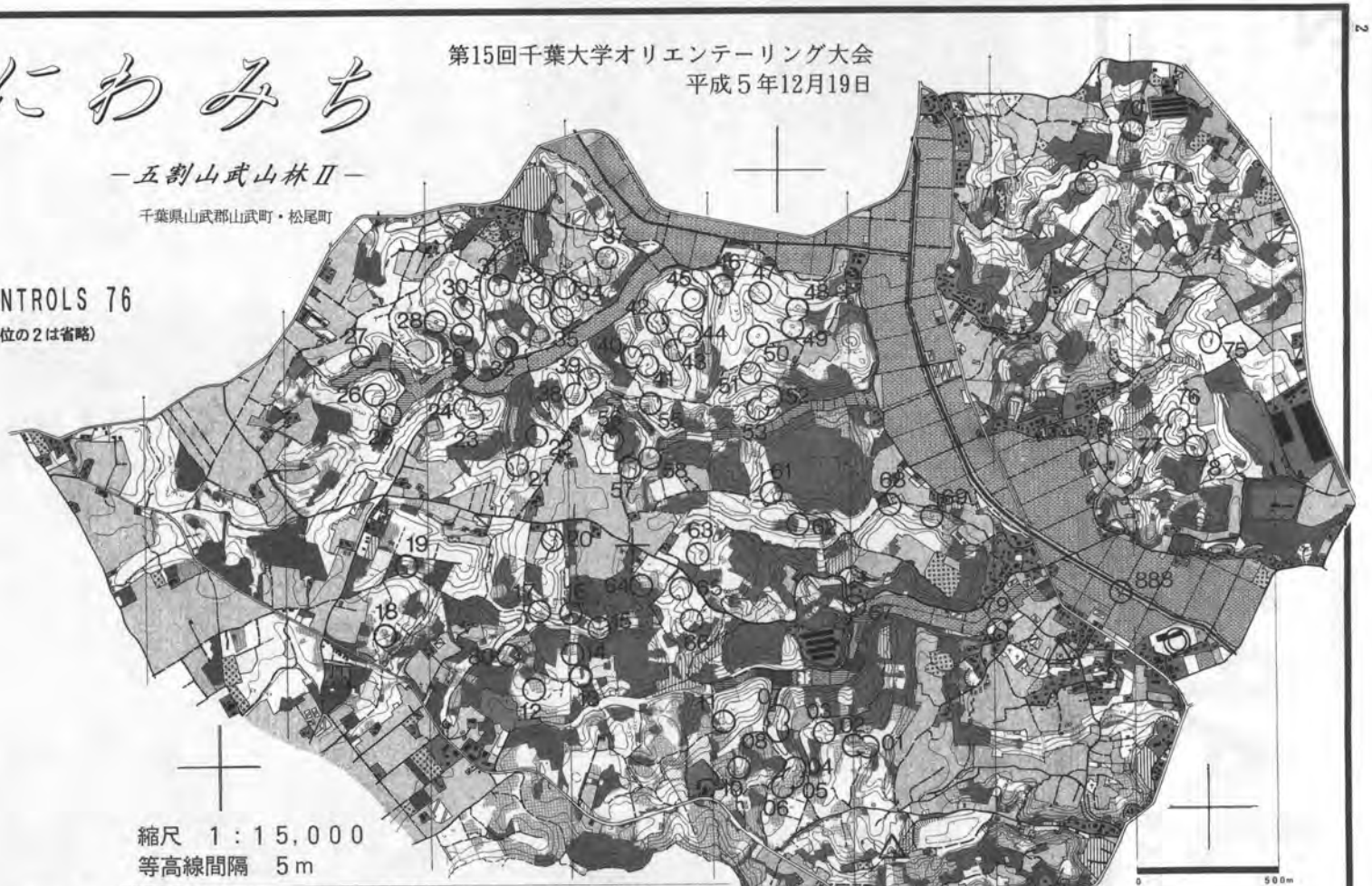
はにわみち

—五割山武山林Ⅱ—

第15回千葉大学オリエンテーリング大会
平成５年12月19日

千葉県山武郡山武町・松尾町

ALL CONTROLS 76
（百の位の２は省略）



縮尺　1：15,000
等高線間隔　5m

主要道路	凹地、小凹地、穴		空地、広場
道路	横穴、きれつ、テラス		果樹園、樹木畑（立入禁止）
道	こぶ		水田（立入禁止）
小道	流れない川、小川、せき		民家等の敷地（立入禁止）
小径	池（大、小）、湧水点、貯水槽		建物密集地
切り開き	建物、建物跡、ビニールハウス		開けた湿地
植生界（明確、明瞭）	墓、墓地、ほこら		水のある湿地
柵（通り抜け可、不可）	鉄塔、炭焼釜跡		植林地、伐採地、荒地
土がけ（通行可、不可）	クリアリング		走行可能
岩がけ（通行可、不可）	しいたけ床（立入禁止）		通行可能
土砂、乾いた流	立入禁止の開けた土地		通行困難

調査期間　1993年3月～11月
調査者　渡野　多賀　伊藤　渡　上吉原一弘　文塚　進一　大山　直樹　三田　宏幸
後藤　宮志　佐藤　貴之　三田　宏幸　丸山　直樹　上野　傑
山口　秀敏　石村　雅仁　上野　傑　荒木　美奈　上野　傑
大石　豊　前田　雅史　雅彦　信行　本内　信行　増田　洋子
佐々木貴紀　城下　陽子　千恵　香織　宮本　鈴秀　中原　克彦　真紀　恵人　平野　真紀　増田　恵人
毛利　貴人　井上　明人　小野　哲強　笠嶋　哲也　門脇　真樹　上川　新吾　小泉　真宏　小山　勝一
幕田　牧一　結木　清夫　染矢　和子　上畑　智文
原田　和明　篠田　正憲　松崎　剛史
作図者　荒々木貴紀　中里　宏志
印刷　弘報社

CHIBA UNIVERSITY ORIENTEERING CLUB
千葉大学体育会オリエンテーリング部

CUOL O-MAP NO. 16

[本誌掲載のため約61%に縮小]

O-JAPAN ORIENTEERING JAPAN

次回開催地・香港のＯＬ界の中心的存在である Patric Ng（呉金富）氏

世界中のほとんどの国・地域でのＯＬを体験している P-O Bengtsson氏（右記）

第７回アジア・太平洋選手権大会＝APOC '94 の一連のシリーズは，昨年12月29日から本年１月９日にかけてニュージーランドで開かれた。［写真は表紙も含めていずれも日本選手のひとりとして参加した木植早生さん提供］

□ □ □

□今月の表紙：APOC'94 = NZ，酒井　啓光君

□今月の地図：１２月１９日，千葉県山武郡山武町・松尾町で開催された，第１５回千葉大学オリエンテーリング大会での使用地図。
［同大学オリエンテーリング部提供］

□ □ □

９４／２月号・№１２７　目　次

●＝SQUAD REPORT＝ ……4-6
「1994年　アジア・太平洋
オリエンテーリング選手権大会（APOC）」　元木　悟

●＝オリエンティアのための本棚＝ ……7
第７回：夜久　弘　「心優しきジョガーたち」　福武書店
文：村越　真／カット：早川喜代美

●＝フォト・リポート＝ ……8-9
ＡＰＯＣ－ニュージーランドのテレインの一部
［トレーニング・コースから］　上林　弘敏

●＝PHOTO-O＝ ……10-11
第８回誌上フォトーＯ　正解の発表　竹澤　聡

●＝全国ＰＣ愛好会のページ＝ ……12-14
［パーマネントコース・リポート］
室井　孝介／青柳　嘉祥

●＝お知らせのページ＝ ……16
「情報あれこれ」「ストリーマー②」「編集部より」

□ □ □

ストリーマー①

リレハンメルにおける冬季オリンピックが始まる。アルペンはともかく，かなり日本の入賞の可能性が高い種目が多い。比率から言うと夏季オリンピックよりもメダルの可能性は高い。前回のアルベールビルでの，あのノルディック複合団体の活躍は記憶に新しい。ジャンプでの大きなリードがあるとは言え，あの距離競技のテロップに刻々と秒が刻まれるチェックポイントやゴールエリアからの映像は，中間区間が見えないだけにかえってスリルが感じられる。団体戦はリレー独特のおもしろさもあった。

さて，もう５～６年前であったろうかＩＯＦ２５周年を記念して発行された「ＩＯＦ２５」の中で，オリエンテーリングをＴＶに売り込む努力をしよう，というＰ－Ｏ・ベングトソン氏の一文（拙訳）があり，本誌にも載せた。ノルディック距離競技の模様がテレビ中継されるのを見ていると，前記のように結構おもしろく，オリエンテーリングも十分視聴にたえるものと思われる。私がそう感じたのは，１０年以上も前だろうか，札幌のスキーマラソンを扱った，ある民間ＴＶの番組を見た時である。初回ということもあって３０分だったか１時間だったか，とにかくオンエアされた。ＴＶのコマーシャリズムに乗らないからという理由は通じない。１６ページのＩＯＦ情報から言えば，またいつかも掲載したと思うが，むしろ如何にこのスポーツが世界中に広められ，実施されているかが問題のようである。「雪」という制約があるので，どの国でもというわけにはいかないが，通常のフットーＯも比較的一般的に行われている国で，しかもスキーＯができる条件があれば積極的に取り組むべきである。

アジア・大洋州地域で，現在スキーＯの条件が一番整っている国は，この日本であろう。少なくともアジアの核としての役割を果たさなければならない。日本オリエンテーリング協会は，今すぐにでも始めるべきである。１６ページ，ストリーマー②に続けよう。

流人

SQUAD REPORT

1994年　アジア・太平洋オリエンテーリング選手権大会（ＡＰＯＣ）

報告　元木　悟

ＡＰＯＣから帰国してちょうど１週間が過ぎた。私にとって初めての海外遠征であったＡＰＯＣは良い思い出となり、次回の海外へ向けての手ごたえも得られた。Ｏ－ＪＡＰＡＮへの寄稿はＳＱＵＡＤより依頼されたわけであるが、全日本リレー選手権大会まで大きな大会がなく、日本チームのメンバーともコンタクトをとる機会が無かったので、誠に勝手ながら、個人的見解を交えながらＡＰＯＣの報告をさせていただく。なお、私は団体戦終了後、残り２回のイベントを残して帰国したため、全日程の成績を記入できていないことと、本報告は速報であることを予めお断りしておく。

◇ＡＰＯＣ　ＥＶＥＮＴ１（1993．12．30．）◇

ウェリントン郊外の牧草地帯の急斜面で行われた。会場は牧場内に設けられた青空会場であり、簡単なテントとキャンピングカー３台で、本部、計算センター、売店などが作られていた。この即席で簡易な大会運営スタイルはＡＰＯＣ期間中ずっと続いていて、テレインがあればどこでも大会を開くことができるといった感じであった。ＡＰＯＣは地域クラブが１つ１つの大会を分担開催しており、ＥＶＥＮＴ１はウエリントンＯＬクラブが担当していた。会場付近は晴れていて暑かったが、激アップをスタート地区まで登っていくと尾根上は霧がまき、涼しいのには驚いた。牧草地の地面は堅く、凹凸があって走りにくく、非常にタフなテレインであった。この日は1:10000の急斜面のテレインであったが、等高線が潰れている部分にもポストがあり、急斜面を走るのに苦労した。私にとってこの大会が海外初レースであったわけであるが、1993年ＷＯＣクラシカルチャンピオンの Allan Mogensen (DEN)とM21Ｅを15分差で走りきることができ、レース内容を含めてとても満足している。Ｅクラス以外の日本人の成績では、金並由香さんがW21Ａながら優勝し、欧州勢にも混じっての大健闘であった。

◇ＡＰＯＣ　ＥＶＥＮＴ２（1993．12．31．）◇

この日も牧草地のテレイン（1:15000）であった。しかしながら１部にはセミオープン（分かりづらい）や林もあり、１日目よりは傾斜は緩く、走りやすかった。高速ＯＬでのナビゲーション能力を問われるレッグが多く、コースは面白かった。途中の林には葉身部に刺のある「Onga Onga」と呼ばれる植物があり、刺されると患部がしびれ、赤く腫れて痛かった。ＯＬの調子が悪いとき、「Onga Onga」に刺されて・・・というのは、ＡＰＯＣ参加者の日本での流行語となるかも知れない。結果は成績に示すとおりであるが、外国選手の速さは日本にいる時から何度も聞かされていたものの、実際一緒に走ってみると、その速さには改めて驚かされた。私はスタート順が良く、ＥＶＥＮＴ２以外にも前述の Allan Mogensen や Alistair Landels (NZL)などＷＯＣメンバーの走りを何度も間近で見れたわけであるが、彼らには１区間をついていくのがやっとで、毎回、あっという間に引き離された。ただ、地図読みに関しては私のレベルでも十分で、彼らと競っている場面でも読めてたし、引き離されてもすぐリロケートして自分の走りを続けることができた。

◇ＡＰＯＣ　ＥＶＥＮＴ３（North Island Championships 1994、1994．1．2．）◇

テレインはようやく森林地帯のテレイン（1:15000）となる。この日のテレインが最も日本的なテレインであった。W21Ｂでは、東大ＯＬＫの佐藤由布子さん（東京女子大学）、中川真紀さん（実践女子大学）の２名が入賞など、日本人選手の成績も良かったのではな

1993.12.30. APOC EVENT1
'OTARI' 1:10000

M21E 7800 UP380 出走44名

1		Allan Mogensen	(DEN)	62.24
2		Frendric Sundstrom	(SWE)	63.07
3		Simion Bourne	(GER)	65.37
11	(11)	Satoru Motoki	(JAP)	77.41
33	(33)	Koji Chino	(JAP)	104.15
34	(34)	Mitsumasa Sugimoto	(JAP)	106.15
35	(35)	Yoshiro Tomita	(JAP)	106.30

注：( )内は総合成績

W21E 5700 UP270 出走23名

1		Katie Fettes	(NZL)	53.07
2		Tania Robinson	(NZL)	63.52
3		Pam James	(CAN)	70.43
10	(10)	Sanae Kiue	(JAP)	87.58
13	(13)	Yukiko Suzuki	(JAP)	99.26
14	(14)	Naoko Kano	(JAP)	101.29
17	(17)	Keiko Hasegawa	(JAP)	134.58
DNQ		Rika Tajima	(JAP)	

1993.12.31. APOC EVENT2
'Jollies Bush' 1:15000

M21E 8900 UP430 出走50名

1		Alistair Landels	(NZL)	69.50
2		Chris Terkelsen	(DEN)	76.31
3		Philip Wood	(NZL)	79.29
27	(15)	Satoru Motoki	(JAP)	97.50
33	(24)	Koji Chino	(JAP)	106.11
37	(27)	Yoshiro Tomita	(JAP)	124.11
40	(28)	Mitsumasa Sugimoto	(JAP)	136.59

W21E 5900 UP330 出走27名

1		Katie Fettes	(NZL)	58.37
2		Tania Robinson	(NZL)	71.04
3		Pam James	(CAN)	71.35
17	(10)	Sanae Kiue	(JAP)	90.03
19	(11)	Yukiko Suzuki	(JAP)	99.07
22	(24)	Rika Tajima	(JAP)	107.32
23	(14)	Naoko Kano	(JAP)	114.31
DNF		Keiko Hasegawa	(JAP)	

いかと思われた。ニュージーランドの林のテレインは、中には多少の藪になっているところもあるが、一般に可能度が良く、走りやすかった。これはニュージーランドでは木の生長速度が日本の約３倍で、伐採・植林を繰り返しているためだと言っていた。今回のＡＰＯＣでは、マッパーが数名いたが、ＥＶＥＮＴ２のマッパー、Malcolm Ingham の話しでは、ニュージーランドの山は地形があまり変わらないため、伐採した時に撮影されている航空写真を原図として調査をするようである。日本のことを思えば、調査はかなり楽であろう。ＥＶＥＮＴ２の「Onga Onga」の林は、テレインの中の藪がややきつかったが、こういった伐採が入っていないような場所は調査が甘く、地図が違っていたように思われた。

◇ＡＰＯＣ Individuals ＆ ＥＶＥＮＴ４（1993. 1. 4.）◇

個人戦は砂丘林で、可能度の良い林が一面に広がり、微地形が多く、とても面白かった。秋田のＯ－ＣＵＰ（1993. 8.東京ＯＬＣ）に出場した人たちの中には、「Ｏ－ＣＵＰのテレインを拡大したようなテレイン」と評している人もいたが、私は参加していないのでよく分からない。ＥやＡの１部のクラス（1:15000）を除いて、他のクラスは1:10000の非常に大きい地図で走った。日本人ではM50Ｂ優勝の朱雀ＯＬＫの森さんを始め、男女５名が入賞。中でも名古屋大学ＯＢの瀬口さんは、M21ＡＳで日本でもお馴染みの Andres Birkedahlさん（東京ＯＬＣ）に次いで、２位の健闘であった。Ｅについては成績に示すとおりであるが、Ｏ－ＪＡＰＡＮ１月号の村越氏の記事の中で、国沢氏の指摘にもあったが、日本人は世界で言う、クラシカルに慣れていないので、クラシカルでは特に後半に体力、集中力を持続させることが難しいと思われた。今回の個人戦では砂丘林の不整地を約14km走るように設定されているが、Spilit Timeで比較すると、優勝した Carsten Jorgensen (DEN)に対して、最初の約1/3区間は元木で７分、富田、茅野で９分しか離れていないが、次の約1/3区間では元木で16分、富田で20分、茅野で27分差となり、最後の約1/3区間ではそれぞれ11分、18分、17分差となっている。ミスが最小限であったとして、最初の差のままで走れれば、トップと比較して元木が20分程度、富田、茅野が25分程度の差でゴールできるはずである。今後、日本チームがより飛躍するためには、レース中集中力を持続させること、そして、そのためのトレーニングの場の提供が不可欠と考えられた。（一部敬称略）

1994. 1. 2. APOC EVENT3
(North Island Championships 1994)
'Glenroy' 1:15000

M21E 8000 UP370 出走57名

1		Alistair Landels	(NZL)	69.19
2		Grant Bluett	(AUS)	71.54
3		Robert Jessop	(NZL)	73.15
30	(13)	Satoru Motoki	(JAP)	89.08
40	(22)	Koji Chino	(JAP)	97.22
42	(27)	Mitsumasa Sugimoto	(JAP)	113.42
DNF	(44)	Yoshiro Tomita	(JAP)	

W21E 5500 UP365 出走31名

1		Katie Fettes	(NZL)	67.22
2		Tania Robinson	(NZL)	68.35
3		Ulrika Ornhagen	(DEN)	74.35
13	(9)	Sanae Kiue	(JAP)	85.44
22	(23)	Yuka Kinnami	(JAP)	106.47
23	(12)	Yukiko Suzuki	(JAP)	107.55
26	(15)	Naoko Kano	(JAP)	112.52
28	(24)	Keiko Hasegawa	(JAP)	121.44

1. 4. APOC Individuals & EVENT4
'Knottingly' 1:15000

M21E 13800 出走60名

					Spilit Time 1st	2nd
1		Carsten Jorgensen	(DEN)	76.11	25	58
2		Alistair Landels	(NZL)	76.21		
3		Flmming Jorgensen	(DEN)	77.45		
44	(13)	Satoru Motoki	(JAP)	110.01	32	81
51	(47)	Yoshiro Tomita	(JAP)	122.41	34	87
53	(24)	Koji Chino	(JAP)	129.20	34.5	94
54	(61)	Toshiya Usami	(JAP)	141.08	40	103
56	(37)	Mitsumasa Sugimoto	(JAP)	160.08	39	117

W21E 9800 出走35名

1		Katie Fettes	(NZL)	76.39	-	-
2		Tania Robinson	(NZL)	77.17	19.5	43.5
3		Anke Ylander	(GER)	83.12		
19	(10)	Sanae Kiue	(JAP)	105.22	-	53
23	(14)	Yukiko Suzuki	(JAP)	129.13	38.5	75
25	(22)	Rika Tajima	(JAP)	133.23	32	75
27	(26)	Keiko Hasegawa	(JAP)	139.34	51	100
28	(19)	Naoko Kano	(JAP)	139.50	-	-

◇APOC Relays & ANZ Relays (1993. 1. 5.)◇

団体戦は砂丘林と牧草地が半々のテレイン。しかしながら、前日の個人戦に比べて砂丘林は可能度があまり良くなく、小径が多かったため、半分道走りのスピードレースとなった。3走のタッチまでに160分しかなく、日本代表チームは男子がタッチ成立で16位。女子は2チームともウムスタートという結果であった。

以下に、APOC5レースのEクラス参加者の成績を掲載する。

最後になりましたが、今回の遠征にあたり、いろいろとお世話になりました村越夫妻、山岸氏、寺嶋氏をはじめ、ご助言下さいました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

1. 5. APOC Relays & ANZ Relays
'Hydrabad' 1:10000

M21A 8500×3人

1	DEN	156.20	①T.Koulyst	②F.Jorgensen	③C.Terkelsen
			53.47	53.28(107.55)	49.05
2	NZL	159.22	①R.Jessop	②G.Barbour	③A.Landels
			53.12	55.15(108.27)	50.55
3	AUS	166.56	①J.Davis	②W.Key	③G.Bluett
			53.36	54.34(108.14)	58.42
18	JAP	225.45	①S.Motoki	②Y.Tomita	③K.Chino
			71.31	82.43(154.14)	71.31

オリエンティアのための本棚

第７回：夜久弘　「心優しきジョガーたち」　福武書店

文：村越　真／カット：早川喜代美

貧乏な院生時代、東京駅から本郷まで走って通っていたことがある。丸の内線の定期代が浮くし、時間の節約にもなる。東京の丸ノ内南口で下りると、皇居の外濠に出て、そこから白山通りを北上する。濠のまわりはたいてい誰か走っていた。調査してみると、その当時で一日２０００人以上の人が走っている。昼休みと退社時に多く、いつ調査しても通行量のピーク時刻は気味悪いほど一致していた。官庁と会社の本社ビルに囲まれた皇居らしいところである。その中には速いのよたよたと走っている駆け出しのジョガーもいる。ひょっとしたらこの本の著者の夜久さんも、その２０００人の中の一人だったかもしれない。彼は千代田区に住み、皇居をホームグラウンドとする千代田走友会のメンバーなのである。「奇蹟のランニング」に触発され、健康と精神の充実のために、１９８２年５月１０日に走り始めたという。彼はこの日を第二の誕生日とさえ言っている。

スポーツをすると健康にならないというのが最近の定説のようだが、夜久さんにとってジョギングが精神的な充足につながっているのは確かなようだ。だいたいスポーツを熱心にしている人で「健康のため」にやっている人なんているのだろうか。形而下のご利益よりも、どれくらい多くの楽しみをそのスポーツを通して発見できるかが、スポーツ継続を決めているように思える。これは努力と精進を重ねているように見える一流選手でも同じことだと思う。

青梅マラソンに出場した時に、招待選手の伊藤国光とすれ違い、彼と同じレースを走っていると思うとゾクゾクするという記述がある。同じ青梅で喜多とすれ違った時、僕の周りのランナーたちが思わず「喜多、ガンバレ！」と気合いをかけたシーンを思いだした。一流競技者が真剣に走るレースで走れる機会はそう多くはない。その迫力は、同じレースを競っている自分たちが思わず応援したくなるほどのものなのだ。

新しいシューズを買った時の友人とのやり取りや、千代田区選手権に出場して優勝した時の話もほほえましい。「陸上競技場でのレースには、ロードレースと異なった独特の雰囲気がある。同じ出場するにしても、ロードレースでは単なる参加者という感じが、タータントラックを走るとなると、いかにも選手とか競技者になった気がしてくる」。「わかる分かるその感じ！」って具合いなのだ。そして彼はそのレースで念願の優勝を果たすのである。千代田区選手権には在住者による一部と在勤者による２部がある。千代田区の昼間人口と夜間人口の比を反映するように、３２人出場の２部に対して１部はたったの３人出場である。優勝の確率は１／３。一人かわせば２位で、もう一人かわせば・・・と考えると頬が緩む、というのは優勝に縁遠い並のジョガーの正直な感想なのだろう。２部と合同になった決勝のコールとともに夜久さんの優勝は決ってしまう。コールに応えたのは彼一人だったからだ。一部の優勝タイムから２分以上も遅かったとも、出場者一人とも賞状には書かれていない。夜久さんは大満足である。

私のようにオリエンテーリングの傍らロードレース大会に時折でたり、マラソンやトラックでのタイムトライアルに浮気をしたりする人間には、彼のレース体験、ジョギング体験の一つ一つが自分の体験とダブってくる。さあ、今週は５０００ｍのタイムトライアルに挑戦である。買ったばかりのスパイクで走れると思うとワクワクする。やっていること、目指していることは違っても発想は基本的に同じなのである。

APOC	Model	3rd Jan

Brothers

12 273

10 235

13 275

1 189

LEGEND

- Road
- Track
- Footpath
- Small Path
- Contour
- Formline
- Knoll
- Depression
- Fence
- Open Land
- Scattered Trees
- Rough Open
- Slow Run
- Walk
- Fight, Tree
- Pond, Marsh

Model Map p[illegible]
Pacific Ori[illegible]
New Zealand, [illegible]

Fieldwork: Bill
Fieldcheck: Gra
Cartography: Bry
Base Map: Sco
Hutt Valley Oriente

3 192 10x10

4 194

(2202)

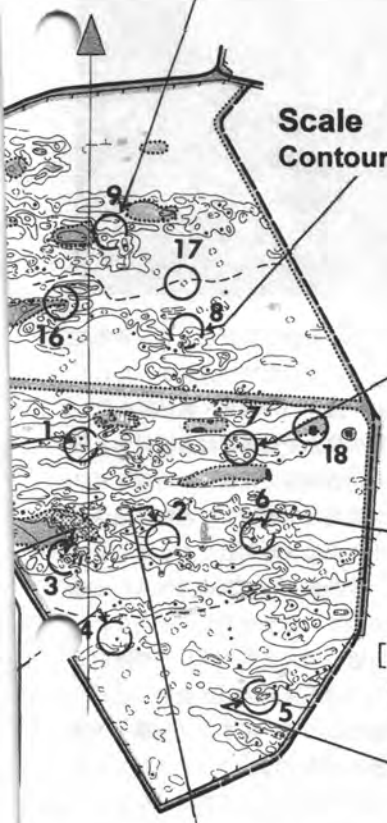
NEW ZEALAND

APOC	Model	3rd Jan

9 | 231 | ↑ | ∧

8 | 199 | ∪

7 | 198 | ↗ | ∧ | —



[本誌掲載のため
約８５％に縮小]

6 | 196 | ∪

2 | 190 | ○ | ♀

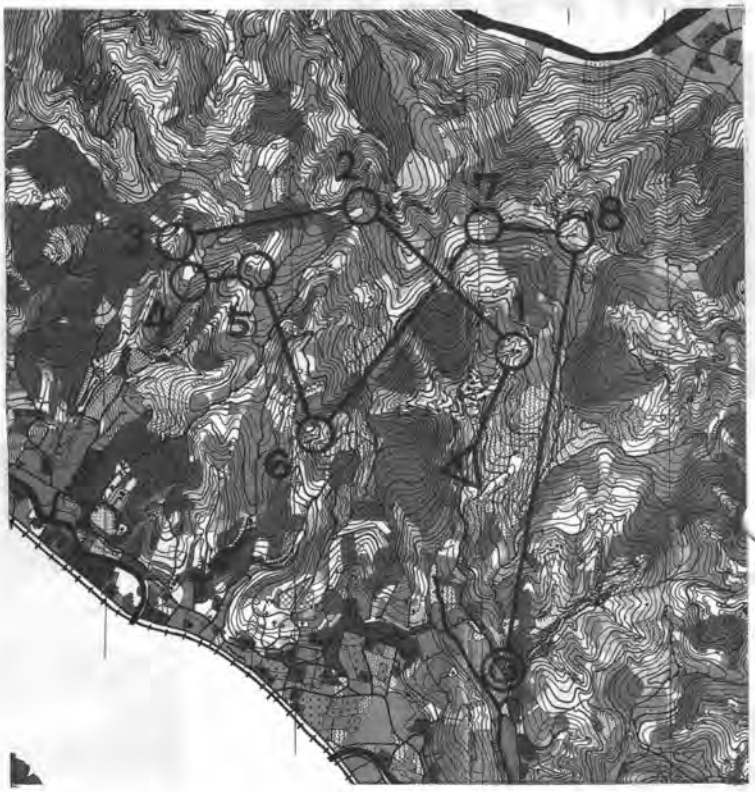
5 | 195 | ⊖ | — | 20x3 | ⊙

第８回
誌上フォトーO 正解の発表

竹澤　聡

去年の１２月号で行なったフォトーOの正解と正解者の発表です。

応募総数は２１通で正解者は１５名でした。問題が難しかったのか，応募総数が前回に比べ３分の１以下に落ち込んでしまいました。



正解は右図のとおりです。なぜそのような解答が引き出せるか…は正解者の佐藤さんの文章をお借りして説明しましょう。

○佐藤　博昭（H50A・北九州OLC）

「マッププロフィールに従って，東半分は使えない。故にコースは西半分になる。

△：西の方で池があるのはこれだけ。おまけに「せき」もある。

①：大きな岩が円の中に２つあるのはここだけ。

②：植生と小径の方向が一致するのはここだけ。

③：地図上で凹地があるのはここだけ？

④：小径と植生界の分岐の状態が一致する。

⑤：「あんぶ」としてポスト設置できるのはここだけ。

⑥：季節的水路の分岐もここだけ。

⑦：植生界の方角と「小径から撮影した」というヒントからここしかない。…しかし正面左部分は伐採地のようでもある。

⑧：いままでのコースをたどって「ほこら」はこれしかない。

◎：「道の曲がりおよび正面の建物」では地図とイメージが合わない。しかし「道路と道の分岐」が接近してあるのはここしかない。

以上のような訳で位置を決定！しかし難易度がＢ～Ｃ？初心者には難しすぎると思う。

おまけ：小道および小径の破線は老眼には実線（道路）に見える。」

佐藤さん，いちいち御説ごもっともです。おみごと！今回の場合，写真自体よりも位置説明に注意した方が正解に早くたどり着けます。「北の」とか「西の」という説明はポスト近傍に同様の特徴物が存在することを示唆しています。それから「大きな岩」と「岩」の地図上の表現の違いや道のランクの違いなどが良いヒントになったと思います。作図の不備とマップが古いことで少々戸惑わせてしまったかもしれません。

○丸岡　広（H35A・調布OLC）

「ヒントを見ないで考えたのですが，どうしても４ポ～７ポが分からず，ヒントその①を見てやっと分かりました。今回は大晦日の夜考えましたが，気がついたら１９９４年になっていました（70分かかった）。」

○斉藤　證明（H40B・気仙沼M.C）

「私の住んでいる町は近頃何かと騒がしい宮城県の北端。その故かゼネコン開発とは無縁で，県都の仙台まで出るのに３時間近くもかかるという，今時珍しい，高速道体系から隔離されている土地です。そんなわけで，近くの大会も，ましてや車中２泊３日の東京周辺の大会もしばらくご無沙汰しています。（仕事・予算の都合が本当のところですが）このままではフォトーOだけになってしまう，とあせってはみるものの一人では新しい地図の入手もままならず，リザルトフロッピーをうらやましい気持ちで見ているこの頃です。（今年こそ出張るゾ！）」

○青柳　嘉祥（H45A・ｻﾝｽｰｼ）

「元朝ＯＬから帰って30分も地図を見ていてもスタート地点さえ特定できず。これは手ごわい。「ヒント」

を（ついでに「仏のヒント」も）参考にしなければとても歯が立たなそう…。
現在は「テレインの東半分にゴルフ場…」との「マッププロフィール」で，まず，スタート地点を判断。あとは，両ヒントを心強い味方にして推定。所要時間80分。直線距離もピッタリ（でも偶然の一致か？）。
初詣のついでに神だのみ「三回連続正解！」を。」

○長谷川　博之（H55B）
「地図を見たとき，グリーンが多くむずかしそうに感じました。△，①，③は比較的早く判りました。②は次に，ほぼこの分岐と推定してもう一度ヒントを見ている中に…④，⑤，⑥を推定して，ヒントのその①撮影順序がヒントになり⑦，⑧の写真がいずれも背景の明るいのに気づきました。直線距離を加算してほぼ誤りがないと確信を持ったのですが，唯一の気がかりは③，④が近すぎることです。…でもすべてのヒントに合致はしている!!祈正解！延べ所要時間約２時間。」

○山崎　律子（D21A・板橋OLC）
「職場の昼休み，地図とコンパスを机の上に置いて考えました。とても消極的な方法ですが，普及の一端を担えればと…。幸いなことに『何してるの』と質問してもらえました。」

○酒井か代子（D40A・やまももの 会），
　さつき（D17－18A・豊多摩高校）
「２人で協力してやりました。およそ３時間。」

○小泉　辰喜（H21A・東京OLC）

○関口　道広（H21A・上尾OLC）
「２番，５番ポストがわかりづらいが直線距離があっているので，多分できていると思う。」

○清水　潔（H21A・横浜OLC）
「とても難しい。仏のヒントなしではつらい。これでもＯＫかどうか自信ないです。距離はあっているので確率８０％といった所でしょうか。また次回も応募したいと思います。楽しい企画お願いします。」

○道久　聡（H21A・OLC ふるはうす）
　久美子（D21A・OLC ふるはうす）
「２人で一所懸命に考えたのですが，妻が賛同してくれないのですが（距離が 28.5cm にならないのですが，少し足りない？），期限が迫ってきたので思いきって出すことにしました。」

○木俣　知大（桐朋学園IK）
「予想に反した回し方で結構なやまされました。⑥，⑦，⑧がなかなか思いつかず自信があまりありませんが…。来年度の東大大会は調査が大変らしいですが，がんばって下さい。」

やはりちょっと難しかったようです。出題者の意図としては，長くても１時間考えれば答が分かるように簡単にしたつもりですが…。今回のようにマップ上の情報・特徴物が多い場合は，写真から解を一意に決定するのが容易ではありません。これ以上簡単にするのは難しいと思います。
木俣君は最年少正解者です。住所が書いてなかったので教えて下さい。

難しいとおっしゃる方がいる一方で簡単に解いてしまった方もいます。

○志村　聡子（ＤＥ・早大OC／横浜OLC）
「かなり簡単だったと思います。（間違っていたら恥ずかしいけど）３番ポストはすぐに分かりましたが，写真からイメージがしにくかったです。５番は植生が地図上で違っているのでかなり迷いました。それにしてもすごいコースですね。６→７は難易度Ｂ～Ｃにしてはエグいなーと思いました。
　このテラインは私が初めて東大大会に出た時のテラインなので（ＤＣで確か 100分以上かかったと思う），かなり思い入れがあります。（テライン自体は嫌いですけど。）そういえば初めて竹澤さんを見たのがこの大会の表彰式だったような気がします。因みに私は５位だったので表彰されてません。こんなテラインだけど，ゴルフ場ができてしまったのは大変残念です。一度冬の道元平を走ってみたかったです。（今からでも遅くない？）」

○緒方　賢史（東大OLK）
「今回初挑戦です。20分くらいで解けました。僕は普段ポスト際のイメージをあまりしない（できない）ので良い訓練になりました。」

簡単でしたか…。参りました。
道元平のマップはまだありますので，練習会などを開くことが可能です。冬だったらそこそこ使えると思います。

○利光　良平（多摩OL）
「今スウェーデンの "SKOGSSPORT" のフォトーＯにはまっています。やはり本場モンはむつかしい。」

外国にもあるとは知りませんでした。
正解者の方には記念品をお送りします。残念ながら不正解だった方の中にはかなり惜しい方もいました。これにめげずに次回もがんばって下さい。

今回提供したマップは古くなって使われる当てもなく部屋に積んであったマップを利用したものです。もし大学や地域クラブで古いマップが余っているようでしたら，フォトーＯを提供してみてはどうでしょうか。出題するのも楽しいものです。

問題につきあっていただいたみなさんと，出題の場を提供してくださったＯ－ＪＡＰＡＮに感謝いたします。また機会があれば出題したいと思います。

パーマネントコース

りぽ～と

□１９９３年１０月１６日（土）
長野県　No. 5　　～室 93-3 ～
「菅平高原」
［距離］　　１２ｋｍ
［ポスト数］　１０本　PC-O-MAP

■スタート地点／菅平総合センター
■利用交通機関／JR信越本線「上田」駅から菅平高原行きバス60分。「東菅平」下車。
■地図取扱所／菅平総合センター

卒業地の長野で同窓会があり，遥々出掛けて行く機会を利用して，会場の須坂市から最も近い「菅平高原」をリポートしようと準備して出掛けた。

天候に恵まれ，晴れ上がった空の下でコースを存分に楽しもうと，現地に到着して持っていった資料に従って「菅平総合センター」に行って訊ねてみたら，ここでは地図は販売していなくて，現在の販売所はそこから 100m 程離れた「白樺荘」という店舗で販売していると言うので，そこまで行き地図を購入，地図上でスタート地点を確認しようとしたが，記入は無い。仕方なく地図に記載してある注意事項に従って「菅平高原ＯＬクラブ」（センター内）に電話をしてマスターマップの所在を訊ねたら，先程の係の人が電話口に出て，マスターマップは設置していないと言う。どうも話がちぐはぐして要領を得ないので再度センターまで行き，丁度“町おこしフォーラム”で集まっていた方に聞いてみると，またセンターの中に…。何のことはない先程から応対していた事務員が地図の所在からマスターマップの所在までも知っていたのだ。腹が立ってきたが，折角気持ち良く汗をかこうと遠方まで来て，それも無いかと気持ちを切り替えてマスターマップを出して買う。

マスターマップは引出しの中に眠っていた。全てのと言いたいところだが，肝心の秋コースが無いと言う。仕方なく夏コースを書き移しスタート。

ポスト①は道なりに行けば，南角の藪の中に錆びて傾き，木に縛りつけてあるポストを容易に見つけることができる。そこから②へは道路を行くしかない。地図上では道路沿いのように見えるが，実際は道路と小径の分岐の南東奥だった。小径の記入が有ってもよいと思ったが無い。

ポスト③は可なりの距離をだらだらと上がって行くルート。このコースはクロスカントリーのトレーニングに最適だなと思いながら走る。北東の角に白樺の古木を見ながら左折。③は青年講習所跡の碑の南側（これも地図上には記入無し）。③から④は近いが，行く先々で犬に吠えられるのには全く閉口した。④は道路の曲り外側奥，方角は南西だ。ポスト⑤は冬季にリフトが動いていて，それを利用すれば訳も無いが，それではＯＬ競技にはならない。当日は晴天で気温は26°まで上昇し予想以上にきつかったが，ポスト位置まで到着した時点でその疲れは倍増された。ポストのマーク部分が無く，錆びた鉄パイプだけが淋しそうに傾いて立っていたからだ。仕方なく次のポスト⑥に向かうが，これも⑤同様に亜鉛メッキのポールだけ。これでもコースと言えるのだろうか。呆れ果ててもう中止しようかとも思ったが，それではリポートが書けないことになる。気をとり直して⑦に向かうが，やんぬるかなだ。ポスト⑦，のポイントにはポールさえも無かった。やる気も何も無くなったが，一応は⑧⑨⑩と最後まで廻ってスタート地点に戻った。⑨から⑩への遊歩道（木道）は整備されていれば最高に良いルートだろうと思えたのだが…。しかし現実はその木道も腐っており，補強のために打ちつけた板さえも既に腐っていて走り抜けるのは危険な状態だった。

スタート地点に戻って再度確認して見たが，バス停の横が地図上のスタート地点と記してあるが，私にはスタートマークの中心はその向い側にあるタクシーの待合所前と思える。何れにしてもこのコースを廻るのは，完全に点検整備された後にそれを確認してからにすべきだと思った。

冬期のスキー客相手が主で，それ以外の季節には余り重点を置いていない様にさえ見える対応に，幻滅を感じながらコースを後にした。

今まで，私は志賀高原といえば長野県でも有数の観光地であり別荘地でもあるので，さぞや整備の行き届いたコースを楽しめると思って来たのだが，地図にある説明文★このコースの特徴と注意事項★の何と空々しく感じられたことか。今後は認識を改めねばなるまい。

［註］地図取扱所は白樺荘（一枚 ¥70）。地図に記載の場所には売っていない。

◆

○コース図は前１月号に掲載［編集部］

□１９９３年１２月２５日（土）
滋賀県　No. 5　　～室 93-4 ～
「近江八幡・水郷」
［距離］　　７ｋｍ
［ポスト数］　９本　　PC-O-MAP

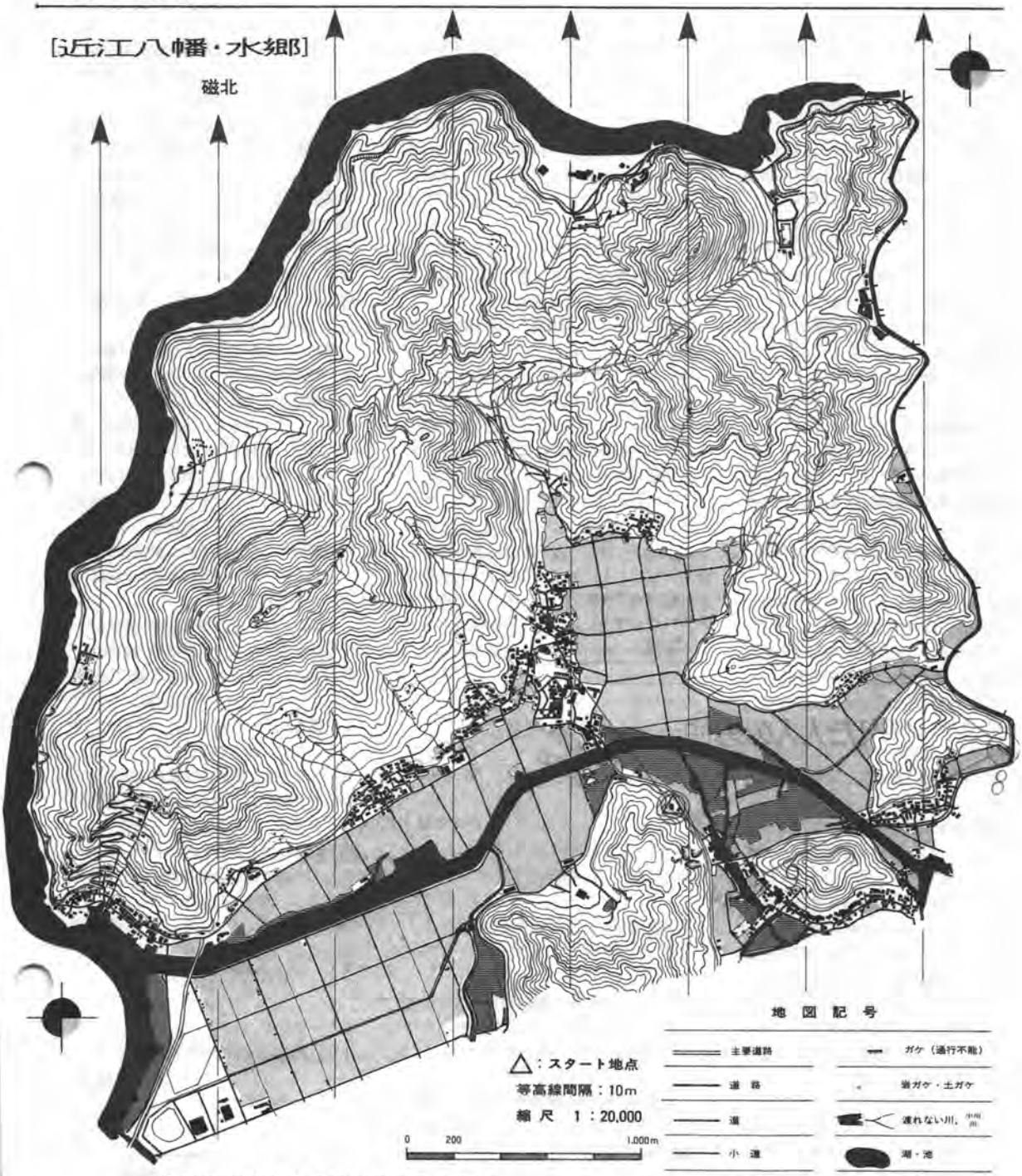
■スタート地点／勧修寺ユースホステル
■利用交通機関／JR東海道本線「近江八幡」駅から近江鉄道バス『国民休暇村・長命寺』行き，約15分。勧修寺ユースホステル前下車。
■地図取扱所／勧修寺ユースホステル・滋賀県ＯＬ協会

以前から『水郷』の二文字に心引かれて，何時の日か走って見たいと思っていたコースだったのだが，やっとチャンス到来。嘸かし素晴らしいコースだろうと思いつつ，勧修寺ユースホステルで地図を購入し，マスターマップの掲示板を見ると，情けなく傾いた掲示面に完全に色が飛んでしまった地図が淋しそうにへばりついていた。仕方なく事務所に行くと，掲示板のマスターマップが消えてしまっているのでここにマップがあるという。出してくれたマップを書き写したが，別に注意書きがあり，「④～⑥の道は“いばら”“シダ”で歩行困難」「⑨のポイントは位置が違う」と書かれていた。

そのことを頭に置いてユースホステル前をスタートした。

スタート直後は水郷名物のヨシ原を右に見て道路伝いに走り，水門を渡って三本目の道路を右折して北向きに暫く行くと右手に神社。それに隣接して池があり，①ポストはその池の北東側にあった。

概してポスト全体の維持管理の様子は①番ポストの状況を見れば，凡そ推測することができるから，①ポストの良好な



目的地に行くための〈1・2・3〉

1

まず地図の縮尺を知ること。1：20,000地図では、1kmは5cmで、1cmは200mですから、自分の1歩がどのくらいかを知っておけば、目的地に正確に行くことができます。

2

記号や等高線をよくみて、その特徴をよく確かめて行くことと、常に自分の現在位置を知っておくことがたいせつです。

3

方向を正確につかむことが重要です。これはコンパスを使用すると容易ですが、コンパスの使い方に慣れる必要があります。

[本誌掲載のため約７５％に縮小]

状態を見て，このコースは良く管理されているだろうと思ったのだが…。

②はこのコースの中では距離があるみたいなので，山道に入るのを避け走る方向を東に転じ，田んぼの中の道に出て方向を北にとって進む。冬の山道は枯れ葉が可なりの厚さで積もっているので，下に隠れた石などは見えないから注意が必要なのだが，このコースの主な所はサイクリング・コースに重複しているので，その様な道筋はモトクロスやマウンテンバイクが走り回って，至る所ぬかるみ状態。場所によっては足首までめり込んで，注意しながら走らなければドロだらけになってしまう。②はその様な道と小径の分岐西側にあった。

③はそのまま道に沿って走るが，この間の道路状態が一番ひどく，轍のなかには四輪駆動車の車輪跡まであった。ぬかるみに足を取られながらＳ字カーブを行き，ポスト手前の急な坂を登った鞍部に着く。③はその傍らに在った。

④はそこから北に暫く登って小さな尾根を越え，可なりの坂道を下り，平坦な場所に出ると，⑤に向かう小径との分岐の位置だ。④はその分岐の東側に在った。ここから「④～⑥の道は“いばら”“シダ”で歩行困難」の注意書きがあった⑤番ポストへ向かうため南に進路を取る。暫く行くと注意書きどおりの道に変わるが，このパーマネントコースは道や小径等の分岐には必ず道標が設置されているので，それを利用できればコースをいろいろと変化させて楽しめるとの印象を受けつつ進む。注意書きのとおり可なり茂っているシダのために足元が見えないので走るのは危険だ。その上に小径には違いないが消え掛けている箇所もあって，まるでケモノ道そのままの状態であった。⑤の手前の坂道を登り切って東に折れる。ここにも道標があって迷うことは無い。⑤は尾根筋に在った。

⑥までは二つのルート，つまり左折してきた小径の分岐まで戻り，⑥まで南行するか，分岐からの道をそのまま進むルート。私は道のままに下って行った。小径を下って，殆ど平地になった時に再び小径の分岐に出られる。そこを西に折れて次の小径の分岐までの中程にシダでは無く笹が茂っていて，道が消えている箇所があったが，進んで来たままに直進すると再び道が現われ暫く行けば小径の分岐の南側に⑥がある。

ここから⑦へは山裾を廻って小径，途中から小道を進み小さな村落を通り抜けた所の神社境内に在ったが，辺りの藪を刈り取った草や芝が積み上げられていて，注意深く探さなくては見つけられなかった。⑦から⑧へは道路を進まねばならないので自動車に注意しながら走る。⑧は道路からも見える場所に設置されていた。

⑨は注意書きにあったポストなので，何処に移動したのかと暫く辺りを探し廻ったが，ついに発見できなかった。

地図の上では水郷巡りの遊覧船発着場に在ったことになっているので，それ程掛け離れた場所ではないと思ったのだが，結果は徒労に終わった。仕方なくゴールのユースホステルに到着後に訊ねてみると，位置が違うのではなく，単に行方不明になっているだけであった。そしてその説明では，行方不明になってから既に一年を経過していると言う。ということはその間に一度の整備点検も無かったということである。①ポストの良好な状態を見て感じた感想はここで取り消し，早い機会に⑨ポストの設置されることを願ってこのリポートを終わります。

リポーター：
〒569 大阪府高槻市大畑町 3-5
室井　孝介

□１９９３年１２月５日（日）
神奈川県　全国No. 592
～青 93-1 ～
「箱根・芦ノ湖畔」
［ポスト数］　１０本　O－MAP

■スタート地点／箱根関所管理事務所（「小田原」駅から箱根町行きバスで「関所跡入口」下車，徒歩２分）

大涌谷→箱根の最高峰「神山」→駒ケ岳→（ロープウェイで下山）→箱根園→箱根神社→杉並木と，ハイキングした後にトライ。

マスターマップ掲示板は「箱根関所管理事務所」（入場券売り場）前に二つあり，共に見えず。入場券売り場で地図を入手。今どき，何と嬉しいことに無料。マスターもあり。赤ボールペン（ハイキング中に落としてしまった）まで貸していただき，写す。

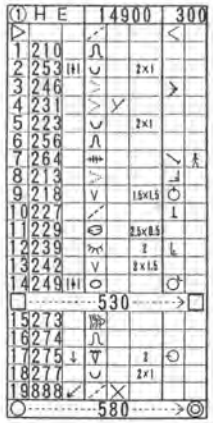
①，②は，「箱根恩賜公園」内。たまたま曇っていたので富士山は見えなかったが，芦ノ湖の展望良好。また，スタート地点を通って，③へ。

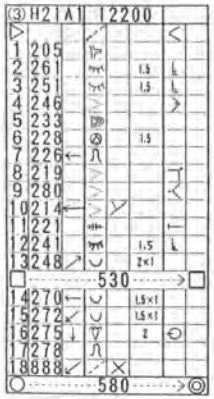
⑤への途中から「旧東海道」へ（こちらは西坂。畑宿から元箱根にかけての東坂が著名）。初めはそれと気付かぬ広めの舗装道路。「芦川の石仏・石塔群」を横に見て，石畳の道へ（ほとんどは復元と聞く）。国道１号線に出るところでマップ上の小径がわからず，そのまま１号線に出て，そのふちを歩く。⑥の手前から，「外輪山歩道」へ。

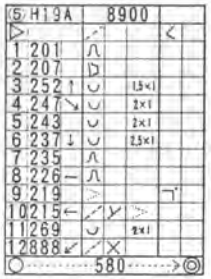
⑦は，「外輪山歩道」から芦ノ湖へ下る分岐付近にあり。この分岐，不明瞭なので要注意（ポストを見逃さないように！）。⑧へ下ると，小道だか小沢（季節的水路）だか分からない状態になる。右から，やや大きめな沢を合わせると，間もなく⑧。そして直ぐ，「芦ノ湖畔西岸ハイキングコース」に出る。⑨，⑩は「箱根やすらぎの森」内。整備が進み，マップ上には無い「森のふれあい館」などができている。

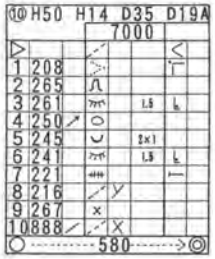
このコース，関所跡・恩賜公園といった名所だけでなく，旧東海道の西坂の一部も歩け，ちょっとした箱根通になれそう？　ただし，マップの説明にも，「後半は難度が高くなります。」と書かれているように，⑥～⑧は山深く，ハイカーも少ないので，特に女性は数人連れでの利用をお勧めしたい。なお，同じ説明に「４～５km，２時間程度」とあるが，距離は約８kmあり，登距離も２００m あるので，所要時間も２時間半程度とする方が，各々，妥当と考える。また，マップ上の「関所跡入口バス停」は「恩賜公園前バス停」の誤りであり，前者はもっとスタート地点に近い。

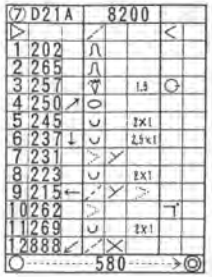
リポーター：
〒253 神奈川県茅ケ崎市代官町 7-38
青柳　嘉祥











はにわみち

—五割山武山林Ⅱ—

千葉県山武郡山武町・松尾町

第１５回千葉大学オリエンテーリング大会
平成５年１２月１９日

Planner　T. Okayasu
Controller　Y. Sasaki

情報あれこれ

□ＩＯＦ（国際オリエンテーリング連盟）
オリンピック種目へとスキーＯを申請

ＩＯＦ協議会は，スキー・オリエンテーリングが２００２年の冬季オリンピック大会での種目の一部となるよう，ＩＯＣ＝国際オリンピック連盟に対し申請書を送った（開催地は１９９５年の９月に決定）。

■

ＩＯＣは最近，夏季オリンピック大会に入れるスポーツとして，‘最低でも４大陸・５５か国で実施されているスポーツ’から‘最低男子４大陸・７５か国，女子３大陸・４０か国で実施されているスポーツ’に，その基準を変更した。

このことは，よく言われている夏季オリンピックの巨大化現象という問題（新しい種目を如何に切り捨てるか－新しいものを如何に加えるかではなく－という議論）から考えると，ＩＯＦにとってスキーＯを優先的に評価してもらうには，致命的になってくる。この決定は，オリエンテーリングをオリンピック・スポーツにという強い信念をもった人々のなかでは評判がよくないということを，ＩＯＦの協議会は認識している。

申請書にはＩＯＦの‘オリンピック・プロジェクト（コーディネイター：カレヴィ・タルヴァイネン＝フィンランド）’とスキーＯの紹介専門のビデオが，バックアップとしてつけられる。申請書は，１９９４年４月に行われる会議を考慮してＩＯＣプログラム委員会に提出される。祈りを続けよう！

［ＩＯＦ発行“ORIENTEERING WORLD”
1994　No.1，IOF NEWSのページより］

ストリーマー②

先月号で，ひとつの専門委員会のみでは一向にラチがあかない，という旨のことを述べた。現在この専門委員会では実施基準の改定や“選手”登録に関することの原案づくりを行なっているらしいが，“選手”ということばには引っかかるものがあるにせよ，元専門委員のひとりとして評価させていただこう。しかし，いろいろなことを進めていくには，「運営機構…」のときに提案したように複数の専門委員会をつくるか，または単一の専門委員会ならば多数のメンバーを全国的に，しかも各専門分野から募り，それぞれの分野に応じたワーキンググループ（以下ＷＧという）を組織すべきである。それには先ず事務局がしっかりすること。そのようなステータスとポジションを与えられたならば，自ら骨身を削って仕事をすることを惜しまず努力することであり，そのことによって協力者を探し募ることができるのである。

前記の登録制度の問題などは基本的な問題であり，新組織が発足した時点ですでに構想ぐらいはあって然るべきことであり，事務局が原案づくり，本誌などを通じて全オリエンティアの意見を聞き，理事会で検討を加えて成案し，総会に図って実施に移すというチャートであれば当初の１年ぐらいでできたことと考えられる。もうひとつあらゆるスポーツの普及に必要なことは，“広報”である。本来，いまの私の仕事は事務局がやるべきことである。例え，それができなくても本誌を通じて“広報”することに頭が回ってよい筈。必然的に専門委員会のなかに広報に関するＷＧをいち早く組織し，毎月とは言わないまでも“ＪＯＡのページ”をつくり，全国のオリエンティアに偏りの無い広報をする。都道府県協会分の部数をＪＯＡが負担するだけで，全国の組織には定期的な情報が流せる。その経費負担が大変ならば，ＪＯＡ主催の大会プログラムや報告書を本誌の増刊号として，参加者に郵送すれば発送経費の節減にもつながる。面子にこだわらずに“Ｏ－ＪＡＰＡＮ後援”とすれば，要項のとじ込みなどで参加者／参加料の増収は目に見えている。表紙に号数を連続ナンバーで表示するのを止めて“発行月”表示するようにしたのは，このことを考えているからである。各企業がリストラに躍起となっている時節柄，親方日の丸の意識を捨てて，時代に適合した予算の使い方を望みたい。今時「会議費」にあまり予算を割くことはない。そう，「専門委員会議」も郵便／ＦＡＸなどをフルに活用，通信費を増やせばよい。

―三洲　流人―

編集部より

◆今月はほとんど情報も無く，このページを埋めるのに苦労しています。また，つまらない私の繰り言におつき合いください。◆先ず，先月から始まった愛場先生の「オリエンティアのための Medical Advice」は，今月は早速休ませていただきます。先生のご都合ではなく（もう次回掲載分はとっくにいただいていますので），本誌の財政状態と編集者の本業務の量と体調を考えて，16ページ発行をきめたからです。たまたま，第２回分の原稿の添え書きに，ひとつのテーマを２回ぐらいに分けて，というリクエストをいただきました。第１回のテーマとなった「花粉症」の時季，きっとお忙しいことと存じます。却ってありがたいお言葉，原稿量に応じて，２回に分けるか，１月おきにするか，勝手ながら編集者のほうで調整させていただきます。ごゆっくりお願いいたします。◆このように，誌面をお借りして返信させていただくなど，大変失礼ですがお許しください。先月のこの欄にも書かせていただきましたが，購読申込みに添えてのたくさんのご芳志に対し，まだお礼状も差し上げておりません。２月末から３月にかけては税務申告そして「昨年度」ランキング集計の残りがありますので，ここのところ直接のお便りのために筆をとることができずにおります。これまでもそうですが，本来“ＪＯＡさん”にいくべき問合せなどには，とてもお答えできる状態ではありません。大変申し訳ありませんが，返事をかけませんので，お問合せには電話で回答させていただきます。◆そのランキングは，今月で残り全て一気に掲載と考えていましたが，やはり予定どおりいきませんでした。とうとう年度末いっぱいになってしまいました。これも，左記の専門委員会のランキングに関するＷＧが行なうべき仕事。人数さえいればかなり早期に点数が出ますので，エリートクラスへの出場権やスタート時刻のシードなどのための，かなり正確なデータとなるのではないでしょうか。◆最後になりましたが，茨城の木植さんと岐阜の上林さんそして東京の酒井さんご一家のみなさまへ。APOCの資料有り難うございました。

―流　人―

Ｏ－ＪＡＰＡＮ　発行人／田口　昭子　：　購読料　年間４月～３月　¥3,600　：　編集責任者／田口　肇
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5　：　(高校生以下)　¥2,400　：　Chief Editor: Hajime Taguchi
TEL.045-891-7004　FAX.045-891-2500　：　１部あたり頒布価格　¥300　：　Editorial Address:
分室=Annex　TEL.0287-77-1977　：　'94. 1月～'94. 3月　¥750　：　7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
郵便振替口座／（番号）横浜７－46870　（加入者名）Ｏ－JAPAN 編集部　：　Yokohama, 233 Japan